

日本人の忘れもの

第2部 忘れもの 53

知恵を源泉に



立石義雄
京都商工会議所会頭

現在日本では、国のあり方や社会経済、人々の価値観が、大きく変わろうとしています。これまでの大量生産・大量消費による「モノの豊かさ」を追い求めてきた工業社会から、モノだけではなく「心の豊かさ」を求める成熟社会への移行がはじまっています。特に、一昨年の東日本大震災が契機となり、この動きは急速に早まったと言えるでしょう。

これからは「心の豊かさ」や「人間本来の幸せ」「生の歓喜」といった「工業社会が、未解決のまま残してきた忘れ物」を取り戻すことに、新たな価値観を見出す時代を迎えようとしています。具体的には、環境の保全や安心・安全の確保、資源エネルギーの節約と代替、健康の維持増進、さらには、食糧の確保、教育の向上、人権の擁護といった新たな社会ニーズが重要になるということです。

京都には歴史に培われた昔からの人々の知恵がある

私は、こういった社会ニーズを解決するための付加価値の源泉になるのは、「知恵」だと考えています。京都には歴史に培われた昔からの人々の「生き



て、さまざまな高品位・高品質のモノづくりへと継承されてきました。また、京都は古くから学術が盛んで、自由な雰囲気があり、大学や研究機関が集積し、イノベーションのための産学公の連携を円滑にする「知恵インフラ」を整えてきました。

世界でも稀な独創性と先進性を併せもつ都市

その結果、京都は、いつの時代にも受け入れられる伝統的な商品・製品が根付く一方、世界的な先端産業も数多く輩出するという、世界でも稀な独創性と先進性を併せもつ都市として発展してきました。「高い文化と学術を有する創造的都市は、その時代の産業に革新を起こす」。これは私の持論です。京都は、日本の都として千年を超える

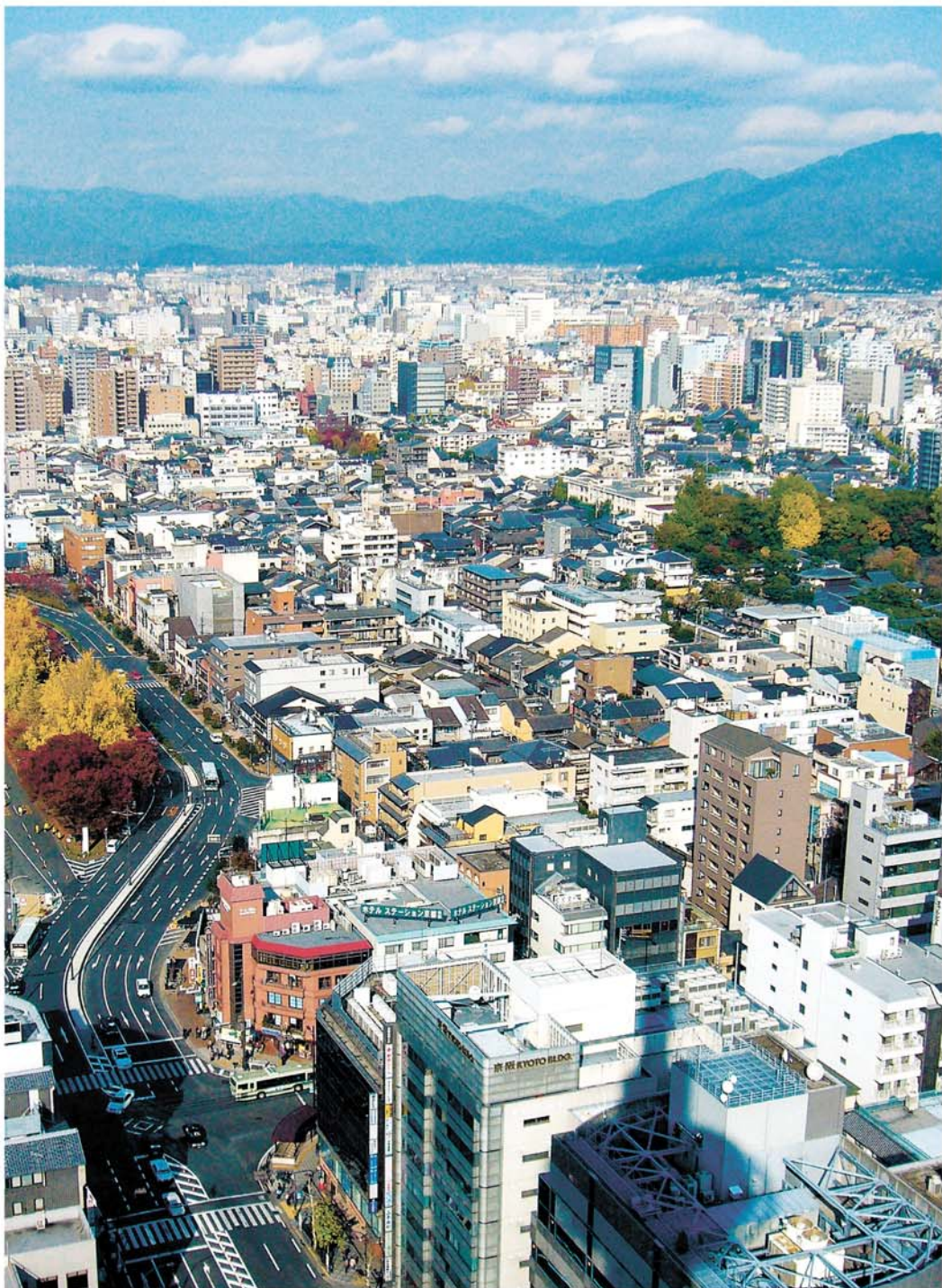


に創造的都市です。

「知恵産業」が工業社会で忘れられた日本人の「心の豊かさ」を取り戻す。

方知恵「暮らし方の知恵」「まちのあり方の知恵」が豊富に蓄積されています。それが文化の豊かさになり、進取の気風と創意工夫と独創力によつ

歴史に培われた文化や芸術、学術といった知恵の蓄積を付加価値の源泉として、顧客のニーズを満たすための新しい価値の創造を繰り返してきた、まさ



京都は知恵の蓄積を付加価値の源泉として、新しい価値の創造を繰り返してきた創造的都市。

きょうの季寄せ(六月)

夏風や竹をほぐる、
黄領蛇

飯田蛇笏



「蛇穴を出づ」(春、「蛇穴に入る」(秋、秋の彼岸過ぎて穴に入らないでいる蛇を「穴惑い」という。句会場へ出かける途中、蛇の抜け殻を拾い、席題「蛇の衣」にと、1メートル近いの卓上に上げたところ、驚きを買ってしまつたことがある。「さめぐり」は青大将のこと、2メートルを越すものもあるという。竹に巻きついていたものか、竹藪に蟄居していたものか、動き出した。(文・岩城久治)

「きょうの心伝て」

長崎彩子
会社員(京都市上京区/24歳)

サクラランボの季節

山形県在住だった祖母は、この時期になるといつも、箱いっぱいに数き詰められたたくさんさんのサクラランボを送つてくれた。一粒頬張ると甘酸っぱい香りが口の中に広がり、そのたびに、普段はなかなか会えない祖母と対話しているような気持ちになった。

その祖母が、昨年の夏に亡くなった。くも膜下出血だった。私が駆けつけたときには、もう話ができる状態ではなかった。

通夜の日、大勢の親戚が集まり和やかな雰囲気となった。親戚の一人がこんな話をしてくれた。「亡くなった日にね、おばあさんは最後の挨拶に来てくれたんだよ。数人の親戚宅を祖母は訪問していったらしい。

昨今は、社会的に文化や地域性といった目に見えないものを軽視する傾向が強まっていると感じる。しかし、目に見えないからこそ、そこに何かを感じることで、毎日を楽しく幸せに生きていくのではないだろうか。私には思っている。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が、今も生き続ける千年の都・京都から、温故知新の知恵を発信してきました「日本人の忘れもの」第2部は、今回をもって終了させていただきます。ありがとうございました。この特集に対するご感想をお寄せください。郵便番号、住所、氏名、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-1857 京都新聞COM「日本人の忘れもの」係まで。
E-mail: wasuremono@kyoto-nichi.co.jp
Fax: 075-26212200
●「日本人の忘れもの」第2部のバックナンバーは、京都新聞ホームページで閲覧いただけます。
http://kyoto-nichi.jp/kyo_np/info/nwc/

マングローブ植林100年宣言。

マングローブの植林活動は“地球の未来にかけた保険”です。この活動を大切に、末永く続けていきます。

2010・ベトナム ティエンラン



マングローブの森が失われ、台風や高波などの水害に悩まされていた、ベトナム・ティエンラン。「あのマングローブの森を取り戻そう。」1999年、ここから私たちの植林活動が始まりました。そして今、私たちがベトナムで最初に植えた小さな苗は、ここまで大きな森になりました。私たちはマングローブの植林活動をアジア・南太平洋の国々で進めており、これからも一歩ずつ着実に取り組んでいきます。



TOKIO MARINE NICHIDO 東京海上日動

TOKIO MARINE Quality: 東京海上グループ

京都支店 京都市下京区四条通麩屋町西立売東町22 〒600-8570 お問い合わせ先: TEL: 075-241-1151 ☎0120-868-100 午前9時～午後8時(平日、土日祝とも) <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>